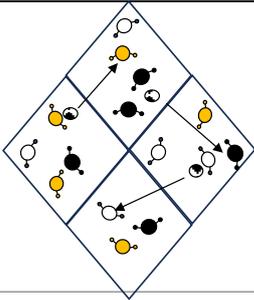
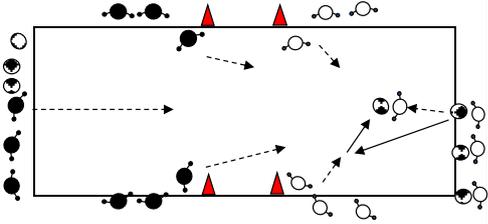
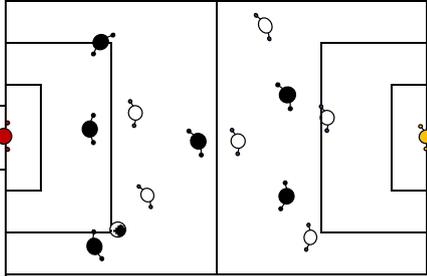
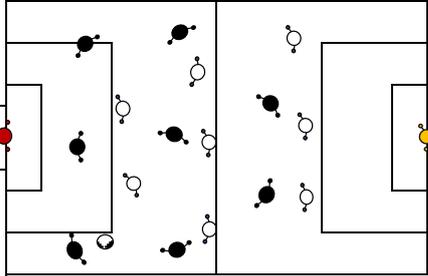


MFA【セントラルトレセン】

《トレーニングレポート》

実施日	2024年 11 月 13 日 (水) 19:00 ~ 20:30				天気	晴					
場所	スポーツの杜鈴鹿第3G			ピッチ	人工芝	コンディション	良				
No.	氏名	所属	.Pos	学年	出欠	No.	氏名	所属	.Pos	学年	出欠
1	小林 遼太郎	ヴィアティン三重	GK	2		11	水谷 碧斗	TSV1973四日市	MF	1	
2	庄司 宗一郎	ヴィアティン三重	MF	2		12	石川 雄斗	ヴィアティン三重	DF	1	
3	井上 晴翔	ヴィアティン三重	DF	2		13	山中 理功	ヴィアティン三重	FW	1	
4	藤田 蓮紳	ヴィアティン三重	MF	2		14	今泉 大志	ヴィアティン三重		1	
5	鮫島 充輝	グランリオ鈴鹿	MF	2		15	萩上 海斗	ヴィアティン三重	DF	1	
6	溝部 龍	グランリオ鈴鹿	FW	2		16	佐藤 瑞貴	グランリオ鈴鹿	FW	1	
7	小牧 律仁	ソシエタ伊勢SC	MF	2		17	竹嶋 嶺	グランリオ鈴鹿	MF	1	
8	川端 翔馬	ソシエタ伊勢SC	MF	2		18	辻 彪亜	ソシエタ伊勢SC	FW	1	
9	川崎 雄偉	ヴェルデラッソ松阪	GK	1		19	加藤 悠士郎	名張FCテコス	FW	1	
10	若林 優樹	FC.Avenidasol	MF	1							

テーマ「ゴールを目指す」 オーガナイズ

W-UP	パス&コントロール	TR1	3対3
(1) 大きさ	22m×18m (ひし型) ×4グリッド	(1) 大きさ	40m×17m
(2) 方法	・3グループでのパスコン (ワンツー、3人目、フリック、コンビネーション)	(2) 方法	・コーチの色コーンでパススタート ・ラインゴール ・アウトオブプレーで交代、連続もあり
			
<p>【キーファクター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観る・ステップワーク・身体の向き・パススピード</li> <li>・スペースを見つける受け方 ・状況によってプレーを変える</li> <li>・攻撃方向を意識したファーストタッチ</li> <li>・アイコンタクト</li> </ul>		<p>【キーファクター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・優先順位 (仕掛ける・背後を狙う)</li> <li>・サポートの角度・距離・タイミング ・マークの原則</li> <li>・コンビネーション (ワンツー・三人目) ・観て駆け引き</li> <li>・パス&amp;サポートの連続</li> </ul>	
TR2	6対6+2GP	ゲーム	8対8+2GP
(1) 大きさ	55m×50m	(1) 大きさ	68m×50m
(2) 方法	・3-1-2の3ライン ・コーチから配給	(2) 方法	・3-3-2マッチアップ
			
<p>【キーファクター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・優先順位 (シュート・仕掛ける・背後を狙う)</li> <li>・サポートの角度・距離・タイミング ・コンビネーション</li> <li>・連続した攻守の切り替え</li> <li>・ボールを追い越す動き</li> </ul>		<p>【キーファクター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・優先順位 (シュート・仕掛ける・背後を狙う)</li> <li>・コンビネーション ・ラストパスのパススピードと精度</li> <li>・連続した攻守の切り替え</li> <li>・モビリティ</li> </ul>	

〈振り返り〉

4回目のトレーニングは、これまで攻撃・守備の一般戦術をテーマに積み上げてきた原理原則をベースに、ゴールを目指すことをテーマに実施した。W-UPからアタッキングサードでの攻撃を意識したパススピードやファーストタッチを要求しながら、ボールの移動中に観るべきもの、いつ・どこに、どのように動くかというオフ・ザ・ボールの準備に働きかけた。TR1でマークの原則と守備のプライオリティを再確認した。高いインテンシティの守備を突破するためのパス&サポートや縦への仕掛けなど個のテクニックが発揮された。TR2では、シュートも選択肢となったことでゴール前の攻守の駆け引きが生まれた。マークの背後を取る動き出しや縦パスに対するサポートの距離・角度・タイミングを確認しながらグループでゴールを目指した。GAMEでもアタッキングサードでコンビネーションが生まれ、タイムレス・スペースレスの状況でゴールを目指しシュートまで持ち込むシーンが見られた。その中でGKの好セーブも目立ったが、フィニッシュの精度の低さやビルドアップでボールを失う場面もあり、今後の課題として挙げた。4回目のトレーニングが終了し、それぞれの個性を発揮しながらテーマの積み上げができている反面、パススピードや意思をはっきりと表現できる力など1回目から課題となっている部分にもフォーカスし次回のトレーニングに臨みたい。